

平成 27 年度第 2 回成田市総合計画審議会会議録

1 開催日時

平成 27 年 8 月 28 日（金） 午前 10 時 30 分～11 時 55 分

2 開催場所

成田市花崎町 760 番地

成田市役所本庁舎 3 階 第 2 応接室

3 出席者

（委員）

野平会長（選任）、伊藤副会長（選任）、新井委員、小梶委員

小野委員、竹内委員、山崎委員、小泉委員（代理）、匝瑳委員

（事務局）

企画政策部 根本部長

企画政策課 高橋課長、椿課長補佐、金光係長、高橋副主査、長野主任主事

4 議事（要旨）

（1）次期総合計画の基本計画（素案）について

次期総合計画の概要を説明したうえで、基本計画の素案について、基本構想の方向性に資する主要施策を報告した。

（2）次期総合計画の実施計画（素案）について

実施計画の素案について、基本目標ごとに主要事業を報告した。

（3）その他

今後のスケジュールについて報告した。

5 質疑等

（次期総合計画の基本計画（素案）について）

□ 観光の部分にある「成田ブランド」の推進とは、どのような取組みなのか。

→ ここで言う「成田ブランド」とは、シティセールスによって「神戸」や「北海道」のように「成田」という知名度を上げ、市としてのブランド力を高めていこうとする取組みである。これまで「成田ソラあんばん」や「ロケ地誘致」などに取り組んできた。今後の新しい取組みとしては、メディアでも話題になったが、市川海老蔵さんを「成田市御案内人」に任命し、成田のPRを行ってもらうことで、成田の魅力アップにつなげてい

きたいと考えている。

- 日本一の産地・品質である成田のさつまいもも、是非成田の魅力アップに活用してもらいたい。

(次期総合計画の実施計画(素案)について)

- 外国人への支援について、子どもには学校生活や日常生活への支援があるようだが、大人の外国人について、例えば日本語ボランティアなど、何か支援策は考えているのか。成田には3,400人も外国人が住んでいるのだから、色々な交流や協力体制を整えていったらどうか。市が主催の国際交流イベントにも外国人が集まらないようだが。
 - 確かに、大人の外国人に対する支援がないので、対応を考えたい。また、日本人が考えたイベントは外国人の感覚とのギャップがあるのだろう。国際交流協会のように外国人目線で考えていくこととしたい。

- 周辺に空き家が増えている。何十年も住んでいない空き家もあり草も刈っていない。所有者が高齢化しており、老人ホームに入ってしまったなど、市が介入しにくいと解決が難しい状況である。防犯的にも不安である。市としてはどのような取組みを進めていく予定か。
 - 空き家対策については国で法律ができ、今地区の方々に空き家の件数を調べてもらっているところ。これからデータを整理し、計画を作って、喫緊の課題である空き家対策についての対応策を考えていく。

- 子どもに係る支援が充実していることはありがたいが、経済的な面で能力があっても大学などに通えないという子も身近にいるので、一番お金がかかる高校生、大学生の時期についての教育費の支援も考えてもらいたい。

- 出産のためなどで仕事をやめてしまった潜在的な保育士がたくさんいる。そういった保育士のためのケアや研修、子どもを預かるなどの支援をし、保育士を増やす取組みを行う必要がある。また、働き方が多様化しているため、保育園の早朝や深夜の対応も求められている。行政だけでなく、様々な団体や子育ての先輩である地域の高齢者の方などとも連携して、働く女性について包括的な支援をしていくことを考えてもらいたい。

- 卸売市場において具体的にどのようなものを輸出しようと考えているのか。また、輸出する品目の募集などは行うのか。
 - 今の時点では未定であるが、これからイギリスを対象とした実証実験を行う予定であ

り、それにより方向性を探っていく。また、民間事業者が主体の協議会において議論をしているところ。

- 表参道の整備については順調に進んでいると思うが、それに比べ、今まきに行っている駅前整備の途中経過を見ると、ややもの足りなさを感じる。これからでも遅くないと思うので、機能的で魅力的な成田の玄関を目指して、市としても力を入れてもらいたい。
- ゆるキャラグランプリにおいて皆でうなりくんに投票し、そういった面でも成田を発信していくとよいと思う。

6 傍聴

2名